

海洋観測衛星速報事業

(予算区分 県単独 研究期間 平成9～18年度)
担当：水産試験場漁業開発部

【研究の背景とねらい】

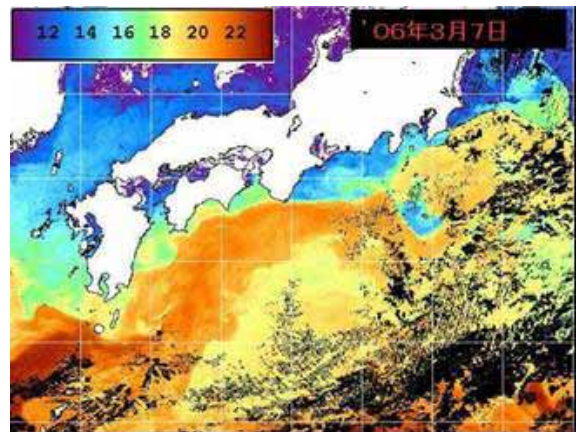
本県の沿岸・沖合漁業は、黒潮や黒潮からの暖水波及、遠州灘沖冷水塊の消長などの海況の影響を大きく受けています。海況は短期間で大きく変化するため、海洋観測衛星受信システムなどにより海況情報を連続して面的に把握し、その時空間変動の特性を説明します。また、入手した海況情報をリアルタイムで漁業者等に伝達し効率的な漁場探索の一助とします。

【研究成果】

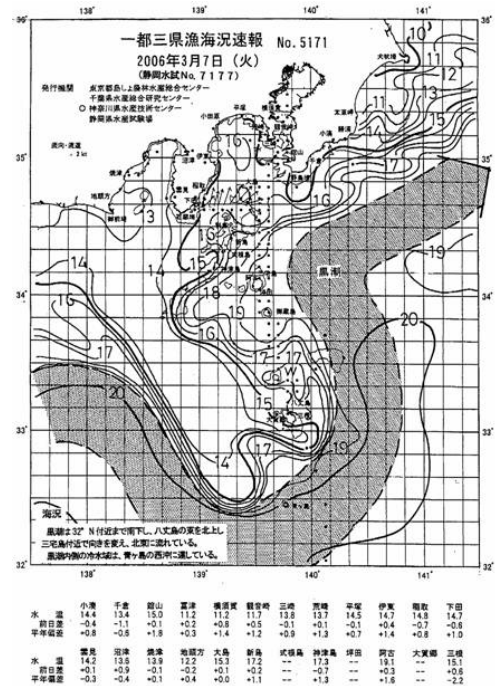
- 海洋観測衛星 NOAA から、空間分解能 1.1km、温度分解能 0.1 の非常に高精度な画像を最大で1日当たり9回受信し、複数画像の合成により雲域を除去した優良な画像を毎日作成できるようになりました。
- 衛星画像を実測水温、潮位、潮流などの情報とともに解析し、黒潮流軸、冷水塊の規模や位置、暖水波及などを明らかにし、リアルタイムの漁海況速報を毎日 FAX で発行するとともに水産試験場のホームページでも公開し、さらに4分割して拡大した衛星画像を携帯電話から閲覧できるようにしました。
- 漁海況速報の共同発行機関と連携して、水温、流れのデータを共有管理するシステムを構築し、迅速なデータの処理及び漁海況速報の作成発行が可能となりました。
- リモートセンシング等を活用した各種データから、伊豆諸島北部海域における黒潮の変化により本県沿岸域への暖水波及の状況が異なることやその暖水波及の伝播速度など海洋変動の実態把握ができました。

【研究成果の普及方法】

- 今後、本研究の成果を普及部門で継続して実施する漁海況の情報発信業務に反映させ、引き続きリアルタイムの海況情報をホームページ等を活用して提供します。
- 黒潮変動、急潮等の暖水波及、及び冷水塊の消長の海洋変動特性などを、各種漁業研修会等で報告していきます。



海洋観測衛星NOAAによる海面水温の様子
(2006年3月7日)



一都三県漁海況速報 (2006年3月7日)

(作成 平成19年3月)